

# 平成25年度 彦根市内遺跡発掘調査報告書

平成二十五年度 彦根市内遺跡発掘調査報告書

March, 2015

Hikone Education Bureau  
Cultural Asset Division

平成二十七年三月

彦根市教育委員会

平成27年 3月  
彦根市教育委員会

彦根市埋蔵文化財調査報告書第63集

# 平成25年度 彦根市内遺跡発掘調査報告書

平成27年 3 月

彦根市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、彦根市教育委員会が、平成25年度に国庫補助および県費補助対象事業として実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、彦根市教育委員会文化財部文化財課が実施した。調査の現体制は下記のとおりである。

### 平成25年度（現地調査）

教育長：前川 恒廣

文化財部長：入江明生

課長補佐：久保達彦

史跡整備係長：北川恭子

主 査：深谷 覚

副主査：三尾次郎

主 任：林 昭男

主 任：下高大輔

臨時職員：佃 昌幸

文化財部次長（兼文化財課長）：西田哲雄

文化財係長：木戸洋平

主 査：池田隼人

主 任：森下雅子

主 任：戸塚洋輔

技 師：田中良輔

### 平成26年度（整理調査）

教育長：前川 恒廣

文化財部長：長谷川隆司

文化財課長：久保達彦

課長補佐（兼文化財係長）：木戸洋平

主 査：深谷 覚

主 査：三尾次郎

副主査：林 昭男

主 任：下高大輔

臨時職員：沖田陽一

文化財部次長：西山 武

史跡整備係長：北川恭子

主 査：池田隼人

副主査：森下雅子

副主査：戸塚洋輔

主 任：田中良輔

臨時職員：堀田佳典

3. 本書で報告した各遺跡の調査担当は下記のとおりで、執筆者は目次に記載している。編集を田中と戸塚が行った。

佐和山城跡（3次）：林

竹ヶ鼻廃寺遺跡（10次）：戸塚

福満遺跡（13次）：田中

4. 現地調査及び本報告書の作成にあたり、関係機関・関係者の方々にご協力をいただいた。
5. 本書で使用した方位は、平面直角座標第Ⅳ系の真北に、高さは東京湾平均海面に基づく。
6. 本調査で出土した遺物や写真・図面等は彦根市教育委員会で保管している。

# 目 次

---

## 例言

平成25年度試掘調査・本発掘調査一覧  
調査地位置図

## 第1章 佐和山城跡（3次）

1 遺跡の概要	1	（林）
2 調査経過	1	
3 調査成果	1	
4 まとめ	4	

## 第2章 竹ヶ鼻廃寺遺跡（10次）

1 遺跡の概要	17	（戸塚）
2 調査経過	17	
3 調査成果	23	
4 まとめ	23	

## 第3章 福満遺跡（13次）

1 遺跡の概要	27	（田中）
2 調査経過	28	
3 調査成果	28	
4 まとめ	33	

報告書抄録

---

平成25年度 試掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	種類	調査日	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	主な遺構	主な出土遺物	主な時代	調査の種類	費用負担
1-1	稲部遺跡	稲部町	集落跡	平成25年7月12日	8	幼稚園敷地拡張	なし	なし	—	試掘	国庫補助
1-2		稲部町	集落跡	平成25年8月5日 ～8月9日	76	小学校グラウンド整備	なし	なし	—	試掘	国庫補助
1-3		稲部町	集落跡	平成26年3月31日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
1-4		稲部町	集落跡	平成25年10月10日	8	農業用倉庫	なし	なし	—	試掘	原因者
1-5		稲部町・彦富町	集落跡	平成25年12月11日 ～12月13日	44	道路改良工事	土坑・小穴	須恵器	弥生・古墳	試掘	国庫補助
2	稲部西遺跡	稲部町・彦富町	集落跡	平成25年12月11日 ～12月13日	16	道路改良工事	土坑・小穴	—	弥生・古墳	試掘	国庫補助
3	金田遺跡	金田町	散布地	平成26年1月23日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
4	上松田遺跡	大藪町	散布地	平成25年12月2日 ～3日	40	宅地造成	なし	なし	—	試掘	国庫補助
5	川瀬馬場遺跡	川瀬馬場町	集落跡	平成25年6月28日	16	集合住宅	土坑・小穴	弥生土器	弥生時代	試掘	国庫補助
6	狐塚古墳	野良田町	古墳	平成25年10月30日	24	店舗	なし	なし	—	試掘	国庫補助
7-1	木戸口遺跡	戸賀町	散布地	平成25年6月13日	4	集合住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
7-2		戸賀町	散布地	平成25年6月13日	4	集合住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
7-3		戸賀町	散布地	平成25年6月13日	4	集合住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
7-4		平田町	散布地	平成25年4月15日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	原因者
8-1	佐和山城跡	彦根駅東土地区画整理事業地	城館跡	平成25年5月10日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
8-2		彦根駅東土地区画整理事業地	城館跡	平成25年5月23日	4	集合住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
8-3		安清東町	城館跡	平成25年6月5日	4	土地区画整理	なし	なし	—	試掘	国庫補助
8-4		佐和山町	城館跡	平成25年6月27日	8	個人住宅	溝・小穴	土師器・陶磁器	中世	試掘	国庫補助
8-5		古沢町	城館跡	平成25年9月18日 ～20日	76	店舗	なし	なし	—	試掘	国庫補助
8-6		里根町	城館跡	平成25年12月24日		店舗	なし	なし	—	試掘	国庫補助
9	下西川館跡	下西川町	城館跡	平成25年5月21日	4	神社神輿庫	なし	なし	—	試掘	国庫補助
10-1	須川遺跡	西今町	集落跡	平成25年8月6日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
10-2		西今町	集落	平成25年9月13日	12	集合住宅	溝・柱穴	土師器・須恵器	古墳・奈良・平安	試掘	国庫補助
11	宮田遺跡	宮田町	集落跡	平成25年7月8日	4	基地局	なし	なし	—	試掘	国庫補助
12	高宮城跡	高宮町	城館跡	平成25年10月23日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
13	竹ヶ鼻廃寺遺跡	竹ヶ鼻町	寺院集落官衙	平成25年7月30日	4	個人住宅	小穴	土師器・瓦	奈良	試掘	国庫補助
14	塚本遺跡	高宮町	散布地	平成26年2月5日 ～12日	180	工場用地造成工事	なし	なし	—	試掘	国庫補助
15-1	肥田城跡	肥田町	集落跡	平成25年8月9日	4	個人住宅	なし	陶磁器	—	試掘	国庫補助
15-2		肥田町	城館跡	平成26年2月10日		個人住宅	なし	なし	—	試掘	原因者
16	寺村遺跡	日夏町	散布地	平成25年4月9日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	原因者
17-1	一ツヤ遺跡	平田町	集落跡	平成26年1月31日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
17-2		平田町	集落跡	平成25年12月3日	4	デイスサービス	なし	なし	—	試掘	原因者
17-3		平田町	集落	平成25年4月25日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
18-1	福満遺跡	西今町	集落	平成25年5月7日	28	個人住宅	落ち込み・小穴	土師器	中世	試掘	国庫補助
18-2		小泉町	集落跡	平成25年10月28日	8	グループホーム	なし	なし	—	試掘	国庫補助
19-1	普光寺北遺跡	普光寺町	散布地	平成25年4月18日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
19-2		普光寺町	散布地	平成25年11月7日	4	個人住宅	なし	陶磁器	—	試掘	国庫補助
20	藤丸遺跡	高宮町	集落跡	平成25年12月25日	20	集合住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
21	矢倉川遺跡	松原町	散布地	平成25年11月22日	20	店舗	なし	なし	—	試掘	国庫補助
22-1	山之脇遺跡	小泉町	散布地	平成25年4月15日	4	個人住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
22-2		小泉町	散布地	平成25年10月23日	8	共同住宅	なし	なし	—	試掘	国庫補助
22-3		山之脇町	散布地	平成25年7月22日	12	分譲住宅	なし	土師器	—	試掘	国庫補助
23	六反田遺跡	佐和山町	集落跡	平成26年3月26日 ～28日	16	道路改良工事	なし	なし	—	試掘	原因者

平成25年度 本発掘調査・整理調査一覧

No.	遺跡名	所在地	種類	調査日	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	主な遺構	主な出土遺物	主な時代	調査の種類	費用負担
1	特別史跡彦根城跡	藩校弘道館跡	城館跡	平成25年12月24日 ～平成26年3月31日	420	遺構確認	礎石拔取り痕・溜樹状遺構	陶磁器	19世紀	本発掘	国庫補助
2		太鼓丸東側	城館跡	平成25年7月22日 ～12月11日	180	石垣修理	石垣・土塀基礎	瓦	17・19世紀	本発掘	国庫補助
3		西の丸水手虎口	城館跡	平成25年7月22日 ～12月11日	18	石垣修理	石垣・礎石	瓦	17・19世紀	本発掘	国庫補助
4	名勝玄宮楽々園	玄宮園	庭園	平成25年12月17日 ～平成26年3月31日	300	整備	護岸	磁器・瓦	19世紀	本発掘	国庫補助
5		楽々園	庭園	平成26年3月12日 ～3月31日	70	整備	礎石	磁器・瓦	19世紀	本発掘	国庫補助
6	佐和山城跡範囲確認(1次)	古沢町	城館跡	平成26年1月6日 ～3月31日	58	遺構確認	礎石拔取り痕・土坑	瓦・陶磁器	16世紀	本発掘	国庫補助
7	佐和山城跡(3次)	佐和山町	城館跡	平成25年6月27日 ～7月22日	85	個人住宅	溝・小穴	土師器・陶磁器	中世	本発掘	国庫補助
8	福満遺跡(13次)	西今町	集落跡	平成25年6月21日 ～7月31日	60	個人住宅	掘立柱建物・土坑	土師器	奈良・平安	本発掘	国庫補助
9	竹ヶ鼻廃寺遺跡(10次)	竹ヶ鼻町	寺院集落官衙	平成25年7月30日 ～8月8日	62	個人住宅	掘立柱建物	土師器・瓦	奈良	本発掘	国庫補助
10	須川遺跡(3次)	西今町	集落跡	平成25年10月11日 ～11月22日	130	集合住宅	掘立柱建物・溝	土師器・須恵器	古墳～中世	本発掘	国庫補助
11	福満遺跡(12次)	西今町	集落跡	平成25年11月27日 ～12月17日	392	宅地造成	掘立柱建物・土坑墓	土師器・須恵器	奈良・平安	本発掘	国庫補助
12	稲部遺跡(2次)	稲部町	集落跡	平成25年7月24日 ～12月27日	791	道路建設	掘立柱建物・堅穴建物	縄文土器・土師器・青銅器	縄文～古墳	本発掘	原因者
13	稲部西遺跡(1次)	稲部町	集落跡	平成25年9月13日 ～平成26年3月24日	1,490	道路建設	掘立柱建物・溝	土師器・木器・青銅器	弥生～古墳	本発掘	原因者
14	西今遺跡(1次)	西今町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	131	個人住宅	溝・土坑	土師器・須恵器	古墳～中世	整理	国庫補助
15	須川遺跡(1次)	西今町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	78	個人住宅	堅穴建物・溝	土師器・須恵器	古墳～中世	整理	国庫補助
16	須川遺跡(2次)	西今町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	64	個人住宅	掘立柱建物	土師器・須恵器	古墳～中世	整理	国庫補助
17	道ノ下遺跡(1次)	東沼波町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	170	個人住宅	掘立柱建物	土師器・須恵器	古代	整理	国庫補助
18	竹ヶ鼻廃寺遺跡(8次)	竹ヶ鼻町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	67	個人住宅	掘立柱建物	土師器・須恵器	古代	整理	国庫補助
19	竹ヶ鼻廃寺遺跡(9次)	竹ヶ鼻町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	83	個人住宅	掘立柱建物	土師器・須恵器	古代・中世	整理	国庫補助
20	藤丸遺跡(4次)	高宮町	集落跡	平成25年4月24日 ～平成26年3月31日	436	集合住宅	掘立柱建物	土師器・須恵器	奈良	整理	原因者
21	丁田遺跡(3次)	高宮町	集落跡	平成25年4月10日 ～平成26年3月31日	1,324	宅地造成	掘立柱建物	縄文土器・土師器	縄文・古代	整理	原因者
22	一ツヤ遺跡(2次)	平田町	集落跡	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	1,546	幼稚園造成	掘立柱建物	陶器・土師器	中世	整理	原因者

文化財保護法第93・94条による届出・通知の件数

平成21年度(平成21年4月～平成22年3月)	85
平成22年度(平成22年4月～平成23年3月)	145
平成23年度(平成23年4月～平成24年3月)	166
平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)	190
平成25年度(平成25年4月～平成26年3月)	209





佐和山城跡

福満遺跡

竹ノ鼻廃寺遺跡



# 第1章 佐和山城跡（3次調査）

## 1 遺跡の概要

### 地理的環境

佐和山城跡は主に戦国期から織豊期にかけて営まれた山城と城下町の遺跡である。城跡は琵琶湖の東岸、彦根市域の北端部に広がる佐和山丘陵の中央部に所在する。標高232.9mの佐和山を中心に、東山麓には中世東山道と北国街道、そして織田信長が整備した下街道との合流点が位置し、西山麓には琵琶湖と繋がった松原内湖が広がっており、陸上・湖上交通の重要な結節点であった。また、当該地は犬上郡と坂田郡の境目、言い換えれば湖南と湖北の境目に位置する。こうした地理的条件より、古くから交通・流通・軍事上の重要地域として注目されてきた。

### 歴史的環境

佐和山城の築城時期は判然としないが、湖南の六角氏と湖北の京極（浅井）氏の抗争の中で境目の城として築かれ発達してきた。その後、織田信長の支配下に入ると重臣の丹羽長秀を城主に置き、安土築城以前の岐阜・京都間の中継点、西国への最前線としての役割を担った。天正10年（1582）の本能寺の変後は、清須会議を経て堀秀政が入り、天正13年以降は豊臣秀吉による大名の配置換えに伴い、秀吉配下の堀尾吉晴、次いで石田三成が城主を務める。関ヶ原合戦後は井伊直政が入り、彦根築城以前の井伊家の居城としての役割を担い廃城となった。このように、佐和山城は、主に戦国期から織豊期という長期間に亘り営まれ、それぞれの時期により様々に城郭の機能を変化させてきた城郭である。

## 2 調査経過

今回の調査は、個人住宅建設に伴う文化財保護法第93条の届出及び調査依頼に基づくもので、佐和山城跡の第3次調査である。平成25年4月19日付けで発掘届が提出され、平成25年6月27日に試掘調査を実施した結果、GL-70cmで遺構面が検出された。遺構に影響の及ぶ建物部分の範囲を調査区として、平成25年6月27日から平成25年7月22日にかけて本発掘調査を行った。調査地は、彦根市佐和山町字内町に位置する。調査面積は約82㎡である

## 3 調査成果

基本層序としては、第1層がにぶい黄褐色粘質土層（表土：15cm）、第2層が褐灰色粘質土層（造成土：15cm）、第3層が黒褐色粘質土層（造成土：40cm）、第4層が淡黄色粘質土層（遺構面：40cm）、第5層が黄灰色砂質土層の5層を確認した。表土から約-70cm、標高96.3m前後の第4層上面で遺構を検出したが、検出した遺構は、第3層上面から掘り込んだものと、第4層上面で検出したものが混在している。第4層上面で検出した遺構に関しては出土遺物より、概ね佐和山城城下町に伴う時期のものと判断した。検出した遺構は柵、



土坑、溝、井戸、ピット群であった。今回の調査では多くのピット群を検出したものの建物プランが明らかになったものはなかった。しかし、多くのピットで底部に礫を据えたものを検出しており、これらの多くが建物に伴うものであることを想起させた。これらピット群で

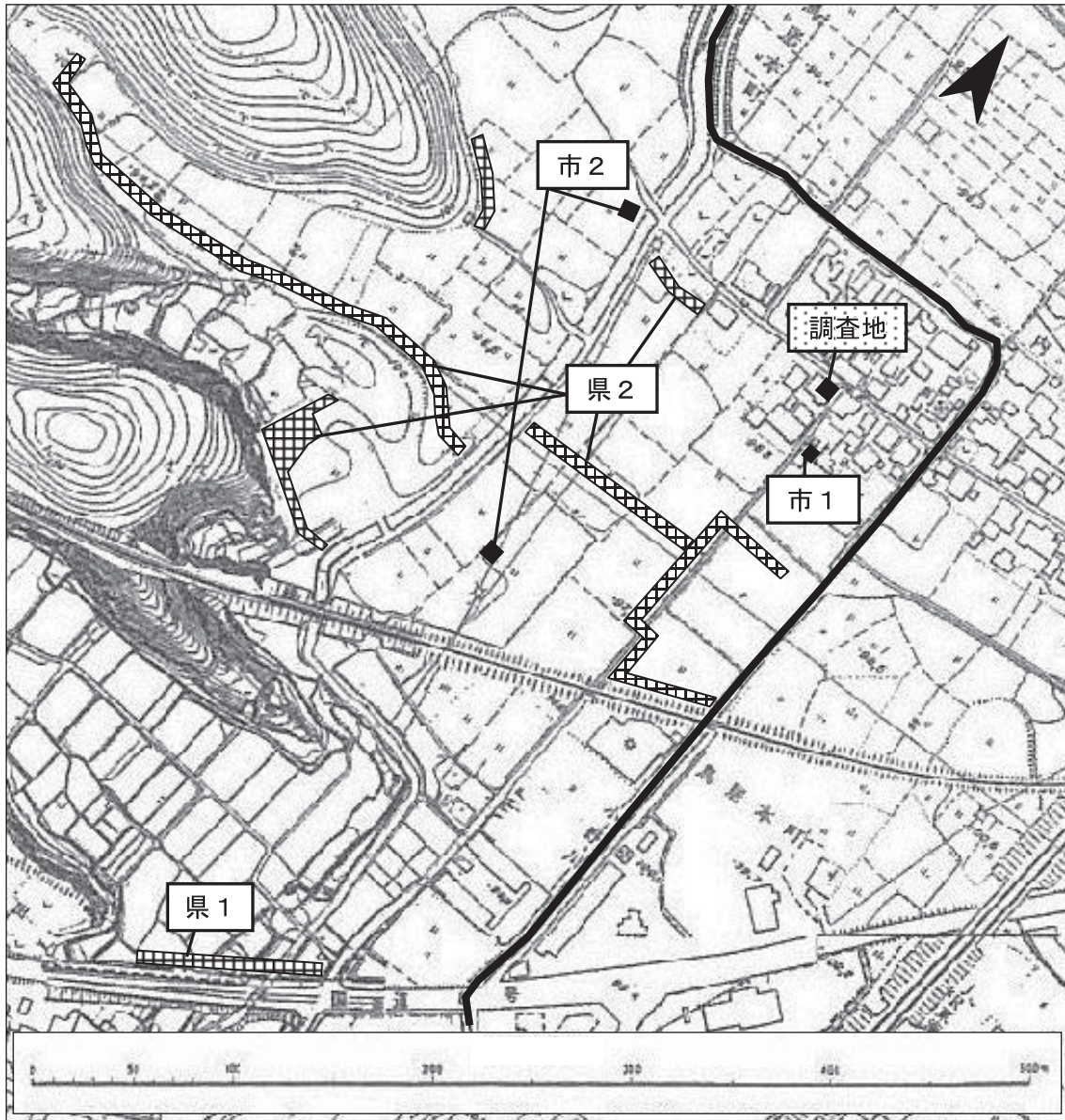


図1 佐和山城跡発掘調査位置図

表1 佐和山城跡発掘調査一覧

調査番号	調査地／調査面積 (㎡)／調査原因	調査期間	調査主体	主な検出遺構・遺物
市1	佐和山町地先 35 (調査面積) 個人住宅建設	1983年12月 ～ 1984年3月	彦根市教育委員会	柱穴、溝、土坑 土師器、陶磁器
市2	佐和山町地先 128 (調査面積) 鉄塔建替工事	2010年12月 ～ 2011年1月	彦根市教育委員会	掘立柱建物、溝、土坑 陶磁器
県1	佐和山町地先 721 (調査面積) 国道8号線歩道敷設工事	1999年3月 ～ 1999年3月	滋賀県教育委員会	溝、土坑、土塁
県2	佐和山町地先 3,881 (調査面積) 中山間地域総合整備事業	2009年4月 ～ 2010年6月	滋賀県教育委員会	掘立柱建物、溝、土坑、堀、井戸、遺状遺構 陶磁器、土師器、須恵器、瓦質土器、とりべ、瓦、土製品、 石製品、木製品、金属製品

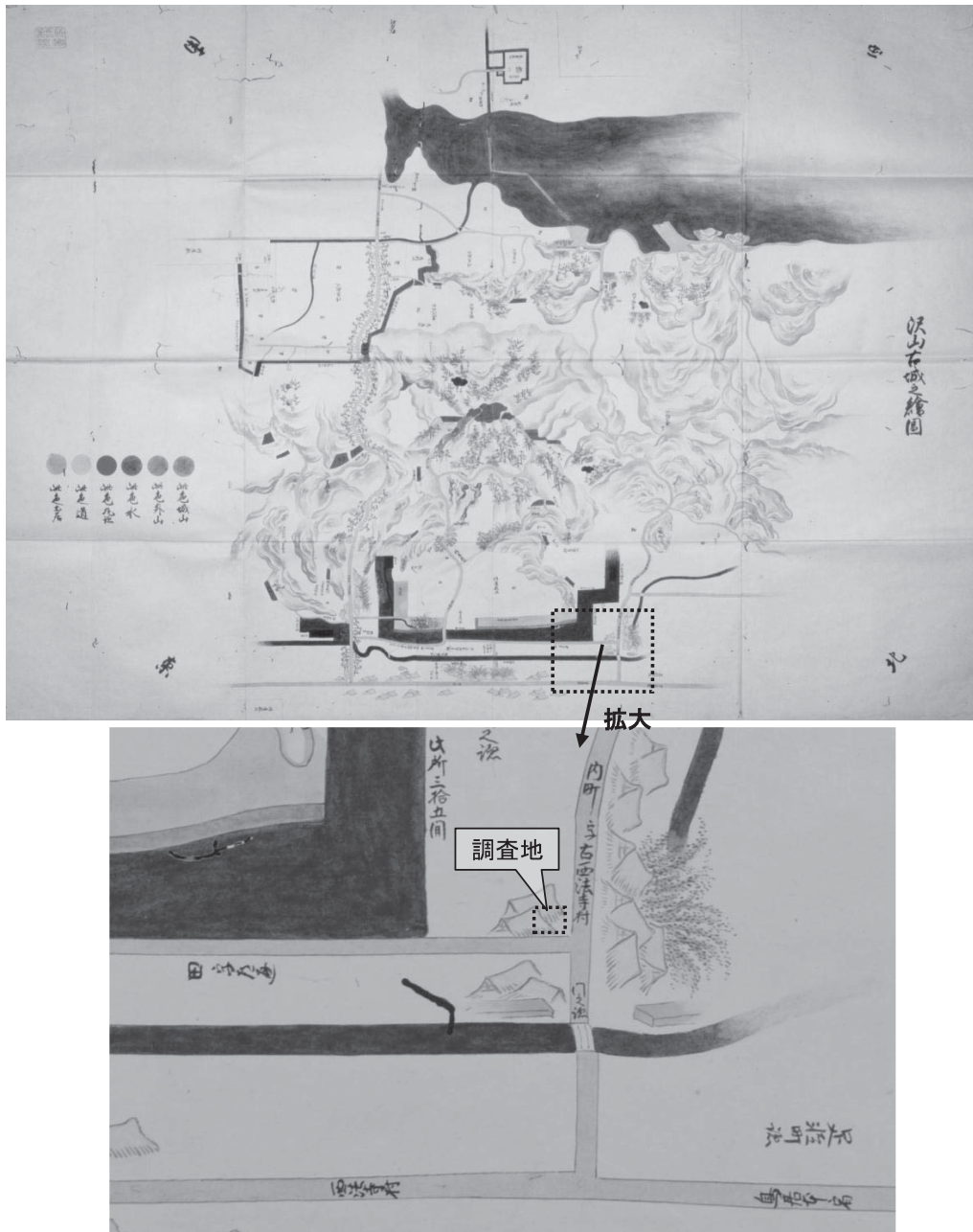


図2 『沢山古城之絵図』における調査地（彦根城博物館所蔵）

は唯一調査区東側で柵（SA1）を検出した。

SA1 調査区東側で検出された柵で、軸は城下町の主要道である「本町筋」（現況道路）に平行する形で検出された。SP3、SP14、SP22、SP47で構成されており、掘り方の平面形は円形で直径32～46cm、残存深度は21～46cmを測る。

出土遺物は、遺構面に食い込む形で、瀬戸美濃焼の灰釉折縁皿（1）と灰釉丸皿（2）、SP1より常滑焼の甕（3）、SP67より瀬戸美濃焼の灰釉折縁皿（4）、SE77より瀬戸美濃焼の小天目（5）と灰釉丸皿（6）、焙烙（7）、SP82より瀬戸美濃焼の播り鉢（8）、SP83より磁器の碗（9）、SP93より用途不明の金属製品（10）と煙管（11）、瀬戸美濃焼の灰釉皿



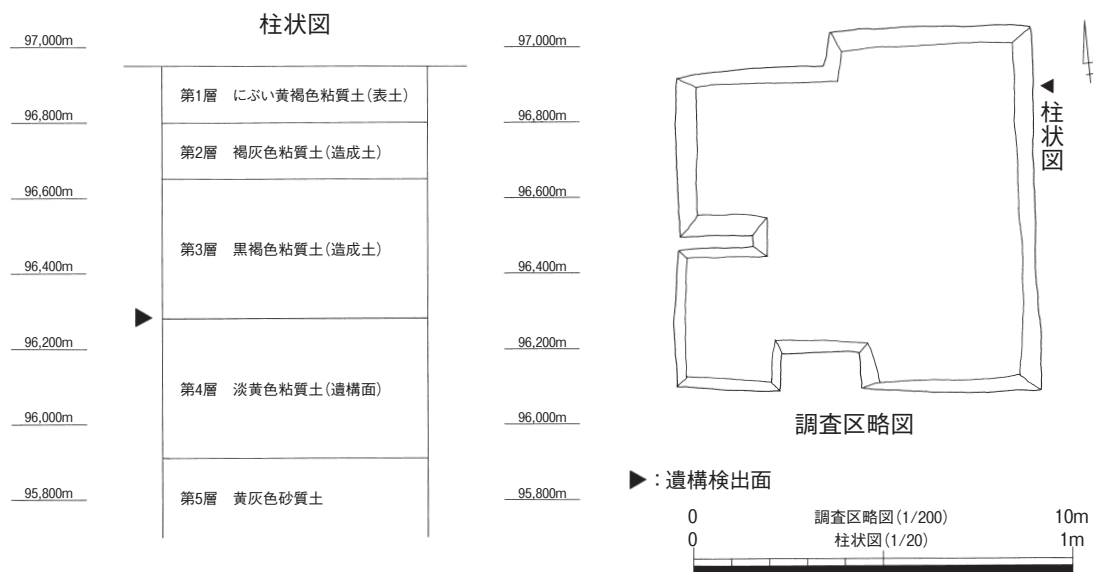


図3 基本層序

(12) が出土している。出土遺物の時期は、陶器を中心に概ね16世紀後半で纏まっている。

検出した遺構の中で第3層上面より掘り込んでいるものがあることは前述したとおりである。調査区壁面の土層断面の観察と埋土の状況より、明らかに第3層上面から掘り込んでいる遺構に関しては、遺構平面図に表記したとおりである。現段階では、第3層から掘り込んでいる遺構の時期は近世以降としか言うことができないが、参考として1点だけ遺物を図示する。この遺物は調査区西壁面の土層観察より明らかに第3層より掘り込んでいる遺構内に突き刺さっていたもので、美濃焼の腰鍔茶碗(13)である。18世紀後半～19世紀前半の時期のものである。その他では重機掘削時には五輪塔の水輪(14)と火輪(15)が出土した。

なお、今回の調査では、遺構を検出した第4層の下層、第5層上面で比較的安定した層を確認したため、一部下層遺構の確認を行ったが、今回の調査地の範囲内では下層遺構は確認されなかった。

#### 4 まとめ

佐和山城跡3次調査の調査結果については前章までに報告したとおりである。調査地は、江戸時代に描かれた『沢山古城之絵図』(彦根城博物館所蔵)に記された城下町のメインストリートである本町筋に接しており、また明治初年に描かれた『坂田郡古西法寺村耕地絵図』(滋賀県立図書館所蔵)には「屋敷」と表記されている。また、開発申請者や周辺住民の聞き取りによると、当該地には「大きなお寺があった」という伝承が残る場所である。

今回の調査では、ピット群を中心に多くの遺構を検出した。その時期は、城下町機能時のものを中心に、第3層上面から掘り込まれた遺構も検出しており、少なくとも2時期存在することが確認された。第3層上面から掘り込まれた遺構の時期は今後も慎重に検討をする必要があるが、城下町廃絶後の一情報を得たことは大きな成果と言えるであろう。

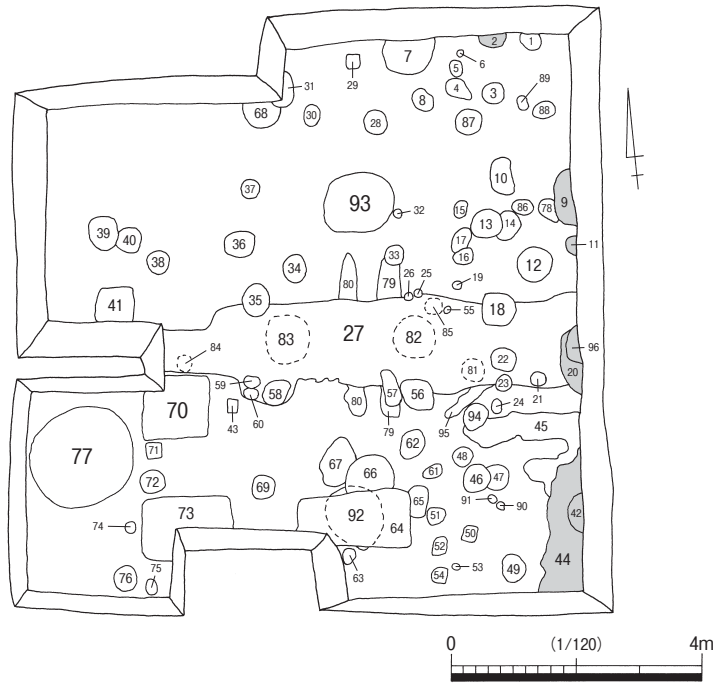


図4 遺構配置図

※トーンは、調査区壁面の土層観察より、確実に第3層より掘り込まれた遺構。  
 ※破線は、遺構埋土除去時検出の遺構。

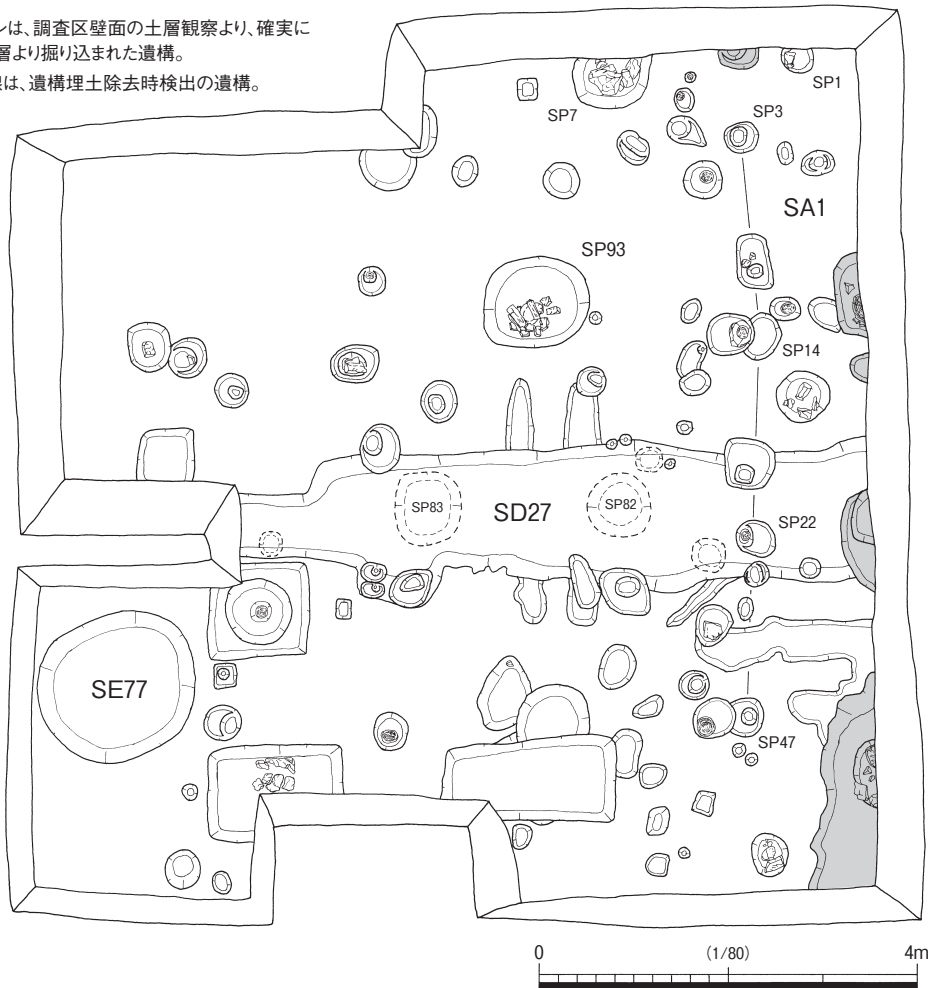


図5 遺構平面図



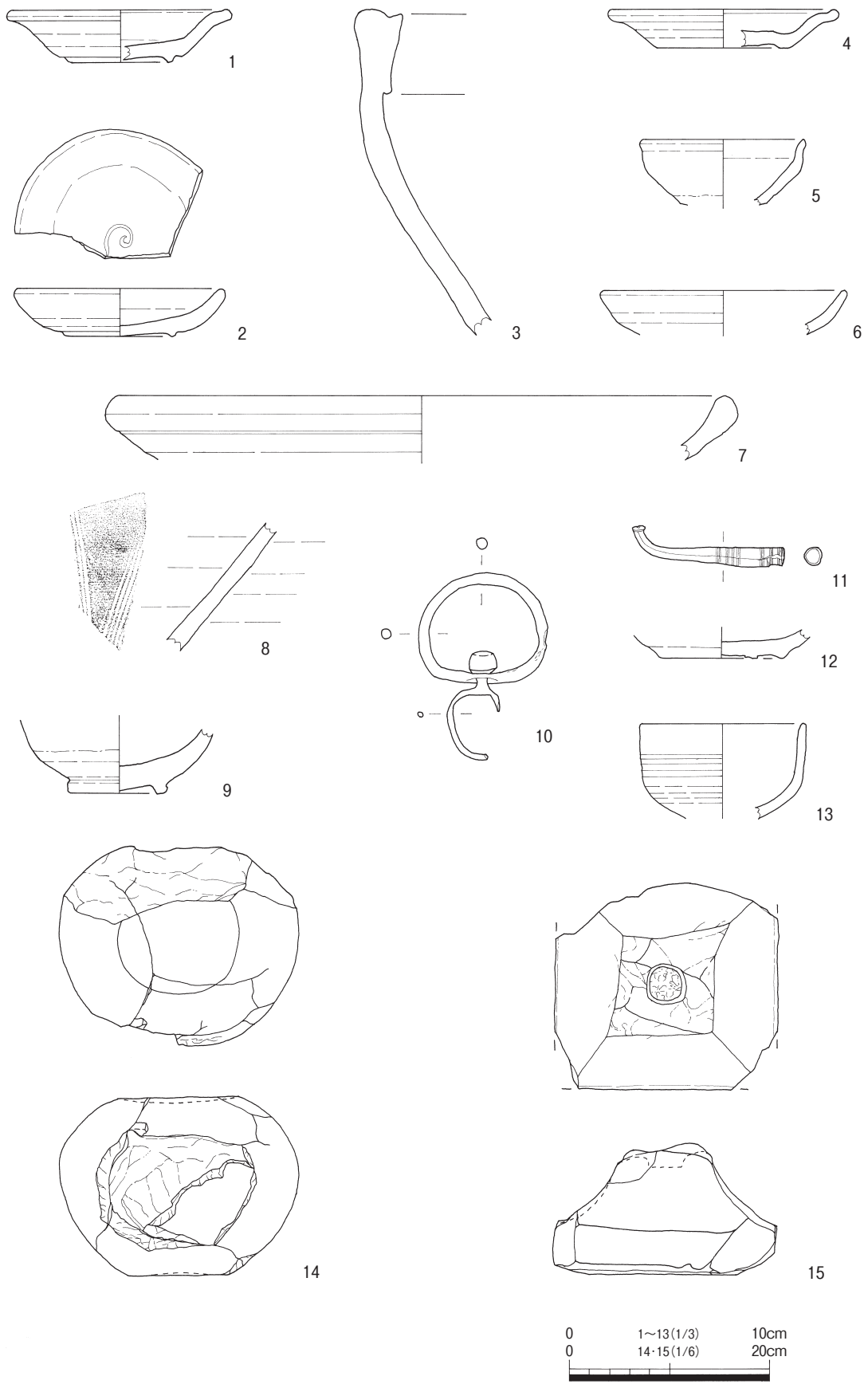


图6 出土遺物実測図

表 2-1 遺構一覧

遺構	平面形	規模 (cm)			出土遺物	備考	写真図版
		長さ (長幅)	幅 (短幅)	深さ			
SP1	円	35.5	24.0	22.8	常滑焼 (1)		
SP2	楕円	44.0	(20.0)	12.4			
SP3	円	35.0	32.0	39.2		SA1を構成する。	7
SP4	不整	48.0	26.0	16.3			
SP5	円	26.0	20.0	14.9		柱材残存。	
SP6	円	10.0	9.9	8.3		柱材残存。	
SP7	円	90.0	(51.5)	31.2		底部に礫。	7
SP8	楕円	38.0	28.0	11.0			
SP9	楕円	88.0	(28.0)	16.1		底部に礫。柱材残存。SP78を切っている。	
SP10	楕円	56.0	34.0	32.7			
SP11	楕円	30.0	(17.0)	6.3			
SP12	円	58.0	55.0	5.7		底部に礫。	
SP13	円	51.0	44.0	45.5		柱材残存。底部に礫。SP14を切っている。	
SP14	楕円	50.0	(27.0)	21.4		SA1を構成する。SP13に切られている。	7
SP15	楕円	27.0	20.0	70.0			
SP16	楕円	33.5	25.0	9.0		SP17を切っている。	
SP17	楕円	45.0	24.0	14.6		SP16に切られている。	
SP18	隅丸 方形	60.0	56.0	46.7		SD27を切っている。	
SP19	円	14.0	14.0	6.2			
SP20	楕円	108.5	(35.0)	31.5		SD27を切っている。SP96に切られている。	
SP21	円	22.0	21.0	7.7		SD27を切っている。	
SP22	楕円	40.0	38.0	31.5		柱材残存。SA1を構成する。SD27を切っている。	6、7
SP23	円	37.0	36.0	10.3		SD27を切っている。	
SP24	楕円	24.0	16.0	4.6			
SP25	円	13.0	12.0	4.3		SD27を切っている。	
SP26	円	11.0	11.0	5.1		SD27を切っている。	
SD27	不整	667.0	144.5	10.7		SD79、SD80、SP81、SP82、SP83、SP84、SP85、SD95を切っている。SP18、SP20、SP21、SP22、SP23、SP25、SP26、SP55、SD57、SP35、SP58、SP59、SP60に切られている。	
SP28	円	38.0	37.0	33.3			
SP29	方形	22.0	21.0	29.9			
SP30	楕円	32.0	24.0	21.2			
SP31	楕円	60.5	(17.0)	6.8		SP68を切っている。	
SP32	円	12.0	11.0	4.4			
SP33	円	32.0	31.5	9.3		SD79を切っている。	
SP34	円	44.0	37.0	12.2			
SP35	円	51.0	42.0	17.6		SD27を切っている。	
SP36	楕円	49.5	40.0	20.5		底部に礫。	8
SP37	円	29.0	28.0	4.6		柱材残存。	
SP38	円	37.0	35.0	20.6			
SP39	楕円	55.0	44.0	36.2		底部に礫。SP40を切っている。	
SP40	円	42.0	40.0	43.7		SP39に切られている。	
SP41	方形	60.0	52.0	33.9			
SP42	円	64.0	(26.0)	21.0		底部に礫。柱材残存。SX44に切られている。	
SP43	方形	20.0	16.0	11.7			
SX44	不整	(191.0)	(67.0)	8.9		SD45を切っている。	
SD45	不整	—	—	9.1		SX44、SP68に切られている。	
SP46	円	48.0	42.0	40.6		柱材残存。SP47を切っている。	
SP47	楕円	41.0	41.0	45.4		SAを構成する。SP46に切られている。	7
SP48	円	32.0	30.0	13.2			
SP49	楕円	45.0	39.0	15.6		底部に礫。	
SP50	方形	29.0	28.0	16.1			
SO51	楕円	29.0	25.0	9.1			
SP52	楕円	33.0	27.0	19.9			
SP53	円	12.0	11.0	4.1			
SP54	楕円	37.0	25.0	10.6			
SP55	円	12.0	10.0	4.2			
SP56	楕円	64.0	46.0	18.7		SD27を切っている。	
SD57	楕円	60.0	23.0	6.8		SD27を切っている。	
SP58	楕円	52.0	39.0	18.8		SD27を切っている。	
SP59	楕円	26.0	21.0	9.9		SD27、SP60を切っている。	
SP60	楕円	24.0	19.0	7.8		SD27を切っている。SP59に切られている。	

( ) 内は残存長、又は復元数値

表 2-2 遺構一覧

遺構	平面形	規模 (cm)			出土遺物	備考	写真図版
		長さ (長幅)	幅 (短幅)	深さ			
SP61	楕円	34.0	18.0	20.9			
SP62	楕円	48.0	43.0	28.4			
SP63	楕円	26.0	22.0	9.2			
SX64	隅丸 方形	187.0	84.0	23.8		SP65、SP66、SP92を切っている。	
SP65	楕円	48.0	(23.5)	52.6		SX64に切られている。	
SP66	楕円	79.0	(56.0)	9.3		SP67、SP92を切っている。SX64に切られている。	
SP67	楕円	76.0	(47.5)	17.2	瀬戸美濃焼 (4)	SP66に切られている。	4
SP68	円	60.0	(40.0)	24.5		SP31に切られている。	
SP69	円	40.0	36.0			柱材残存。	
SP70	方形	108.0	98.0	33.0		柱材残存。	
SP71	方形	24.0	23.0	6.2			
SP72	円	40.0	36.0	44.7			
SX73	長形	146.0	49.0	27.0		底部に礫。	
SP74	円	17.0	16.0	23.2			
SP75	楕円	24.0	18.0	7.7			
SP76	円	42.0	38.0	43.2			
SE77	円	158.0	157.0	—	瀬戸美濃焼(5、6)、 土師器 (7)		9
SP78	楕円	45.0	30.0	7.9		SP9に切られている。	
SD79	—	258.5	39.0	5.4		SD27、SP33、SP79に切られている。	
SD80	—	262.0	28.0	5.1		SD27に切られている。	
SP81	円	36.5	36.0	12.1		SD27に切られている。	
SP82	円	68.0	66.0	42.8	瀬戸美濃焼 (8)	SD27に切られている。	
SP83	円	76.0	70.0	44.1	磁器 (9)	底部に礫。SD27に切られている。	5
SP84	円	28.0	26.5	14.8		柱材残存。SD27に切られている。	
SP85	円	30.0	28.0	9.6		柱材残存。SD27に切られている。	
SP86	楕円	32.0	24.0	12.2		柱材残存。	
SP87	円	40.0	38.0	22.4		柱材残存。	
SP88	楕円	36.0	24.0	13.0			
SP89	楕円	22.0	14.0	7.8			
SP90	円	12.0	11.0	5.4			
SP91	円	14.0	12.0	6.2			
SP92	—	—	—	—		柱材残存。SK64、SP66に切られている。	
SP93	楕円	111.0	95.0	36.9	金属製品 (10、11)、 瀬戸美濃焼 (12)	底部に礫。	10
SP94	楕円	44.0	36.0	12.0		底部に礫。SD45を切っている。	
SD95	—	(76.5)	18.0	6.7		SD27に切られている。	
SP96	楕円	58.0	(22.0)	28.5		SP20を切っている。	

( ) 内は残存長、又は復元数値

さて、今回遺構を検出した標高は96.3m前後であった。これまで、周辺地域では滋賀県教育委員会による調査が実施されており、調査地はいずれも現在耕作地となっている箇所、遺構面は耕作土直下の標高95.7m付近であった。これらの遺構面に比べると、今回の調査地では0.6m前後高い位置で遺構を検出した。これら遺構面検出高の違いも、城下町廃絶後の土地利用の違いに起因する可能性が想定される。

今回の調査では、城下町とその廃絶後の情報が断片的に得られた。今後もこのような情報の蓄積をはかり、城下町とその後の土地利用の状況のさらなる解明に期待したい。

### 参考文献

- 彦根市教育委員会 2009『佐和山城跡』彦根市埋蔵文化財調査報告書第44集  
彦根市教育委員会 2012『佐和山城跡Ⅱ・六反田遺跡Ⅰ』彦根市埋蔵文化財調査報告書50集  
滋賀県教育委員会 2013『佐和山城跡』中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書3-3



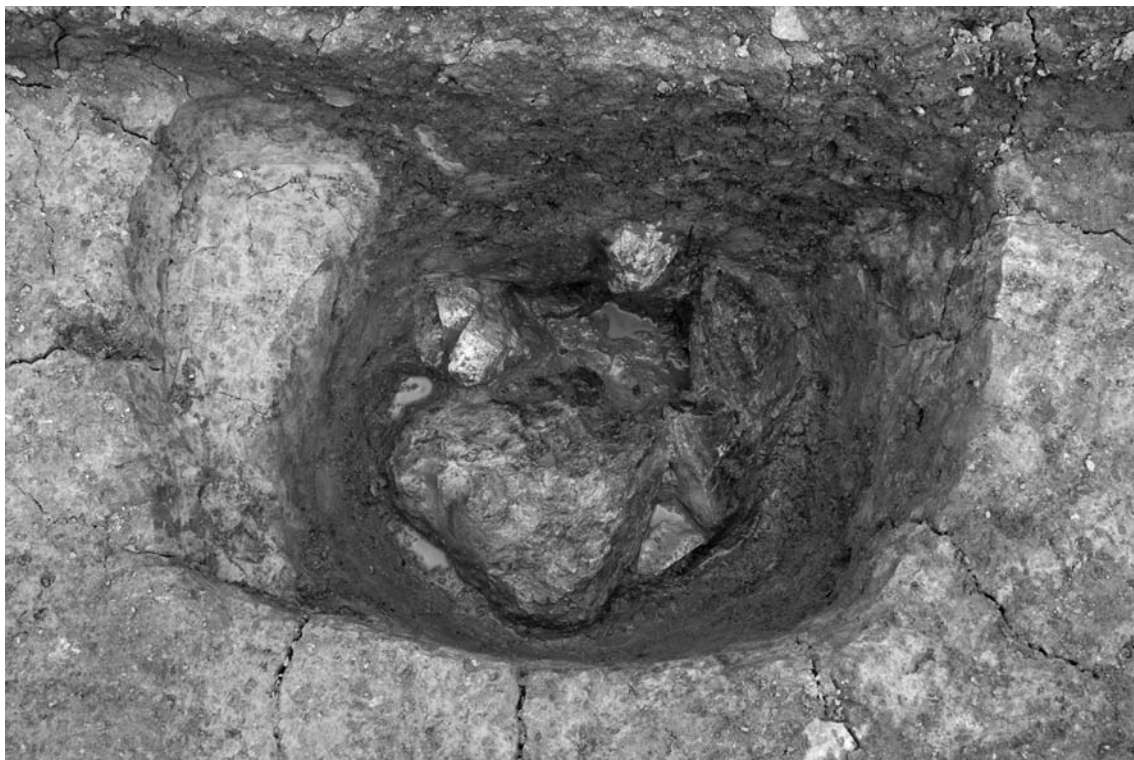
1 遺構検出状況 東から



2 完掘状況 東から



図版 2



3 SP7完掘状況 南から



4 SP67遺物出土状況 西から



5 SP83完掘状況 北から



6 SP22完掘状況 南東から



図版 4



7 SA1 全景 北から



8 SP36完掘状況 西から



9 SE77半裁状況 東から



10 SP93完掘状況 西から



図版 6



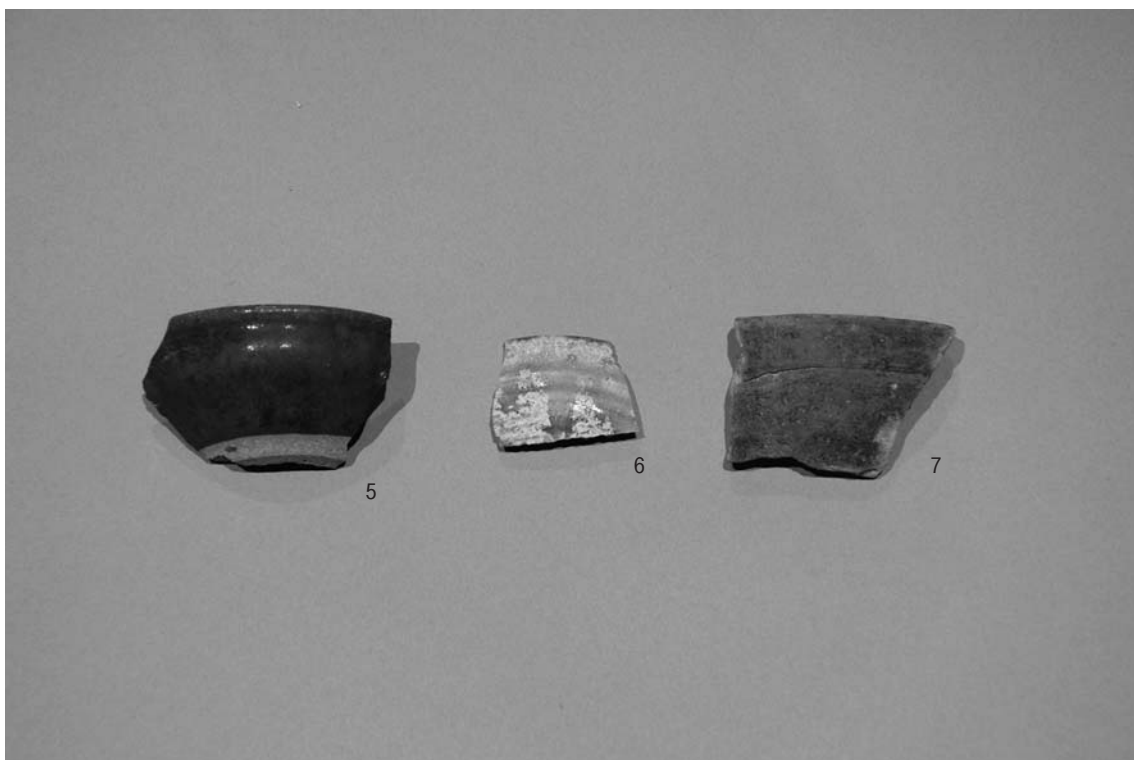
11 SP93遺物出土状況① 北東から



12 SP93遺物出土状況② 北から

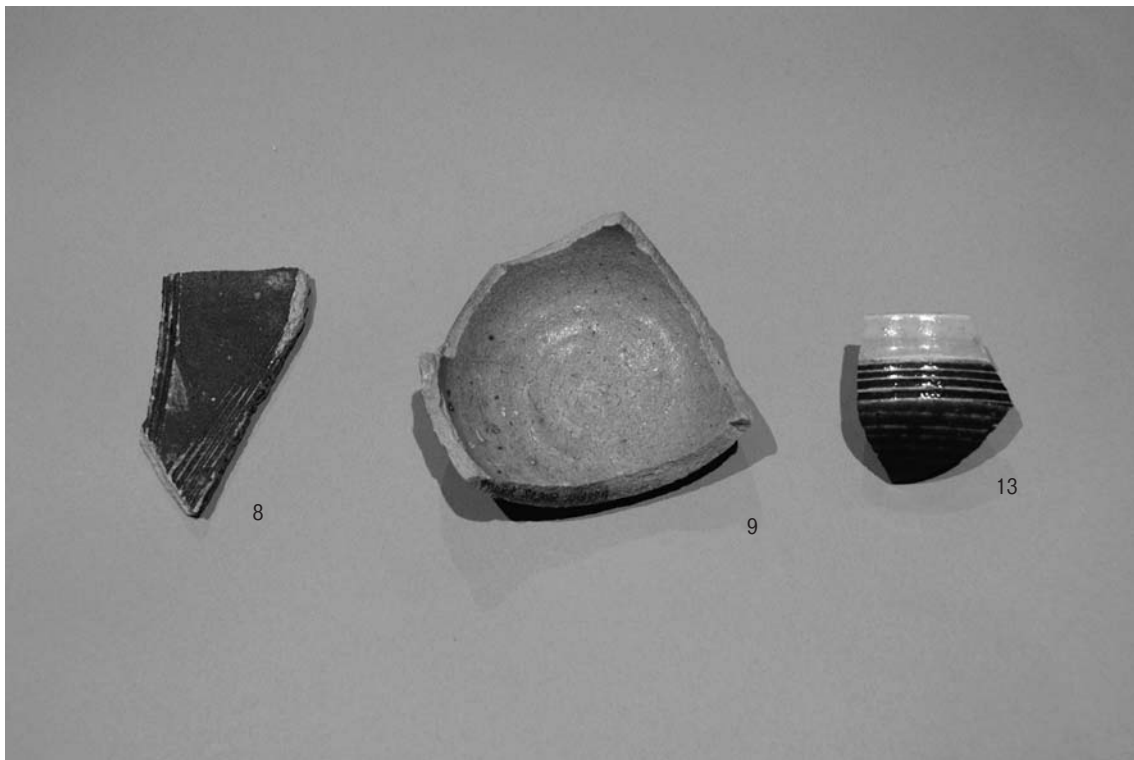


13 出土遺物①

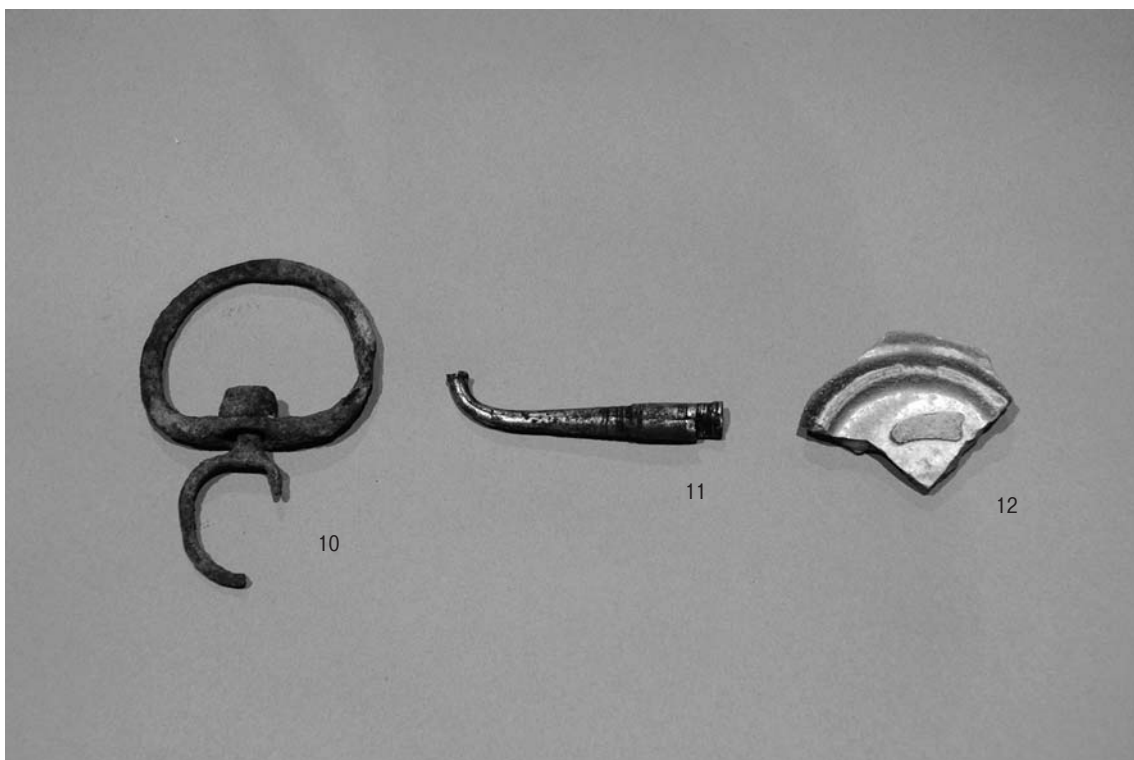


14 出土遺物②

図版 8



15 出土遺物③



16 出土遺物④



## 第2章 竹ヶ鼻廃寺遺跡（10次）

### 1 遺跡の概要

竹ヶ鼻廃寺遺跡は、鈴鹿山系から琵琶湖へ注ぐ犬上川の下流右岸の微高地上に位置する。犬上川扇状地の外側にあたり、周辺は、後背湿地と微高地から成る地形である。扇状地の末端付近には多くの湧水池が存在し、下流の水田の重要な水源となっている。

北方には、品井戸遺跡、福満遺跡があり、犬上川右岸のなかでも遺跡の密度が高い地域である。その多くは縄文・弥生時代から中世にかけての複合遺跡であり、竹ヶ鼻廃寺遺跡においても、弥生、古墳、奈良、平安、鎌倉、室町の各時代の遺構が存在する。竹ヶ鼻廃寺遺跡は、犬上郡を代表する古代寺院である。古代寺院が廃絶した後、8世紀中葉には整地が行われて官衙的な大型建物が配置され、犬上郡衙である可能性が高いと考えられている。

### 2 調査経過

今回の調査は、個人住宅の建設に伴う文化財保護法第93条の届出及び調査依頼に基づくもので、竹ヶ鼻廃寺遺跡の第10次調査である。試掘調査の結果に基づき、遺構に影響の及ぶ建物部分の範囲を調査区として、平成25年7月30日から平成25年8月8日にかけて調査を行った。調査地は、彦根市竹ヶ鼻町字石佛302番1に位置する。調査面積は62.10㎡である。

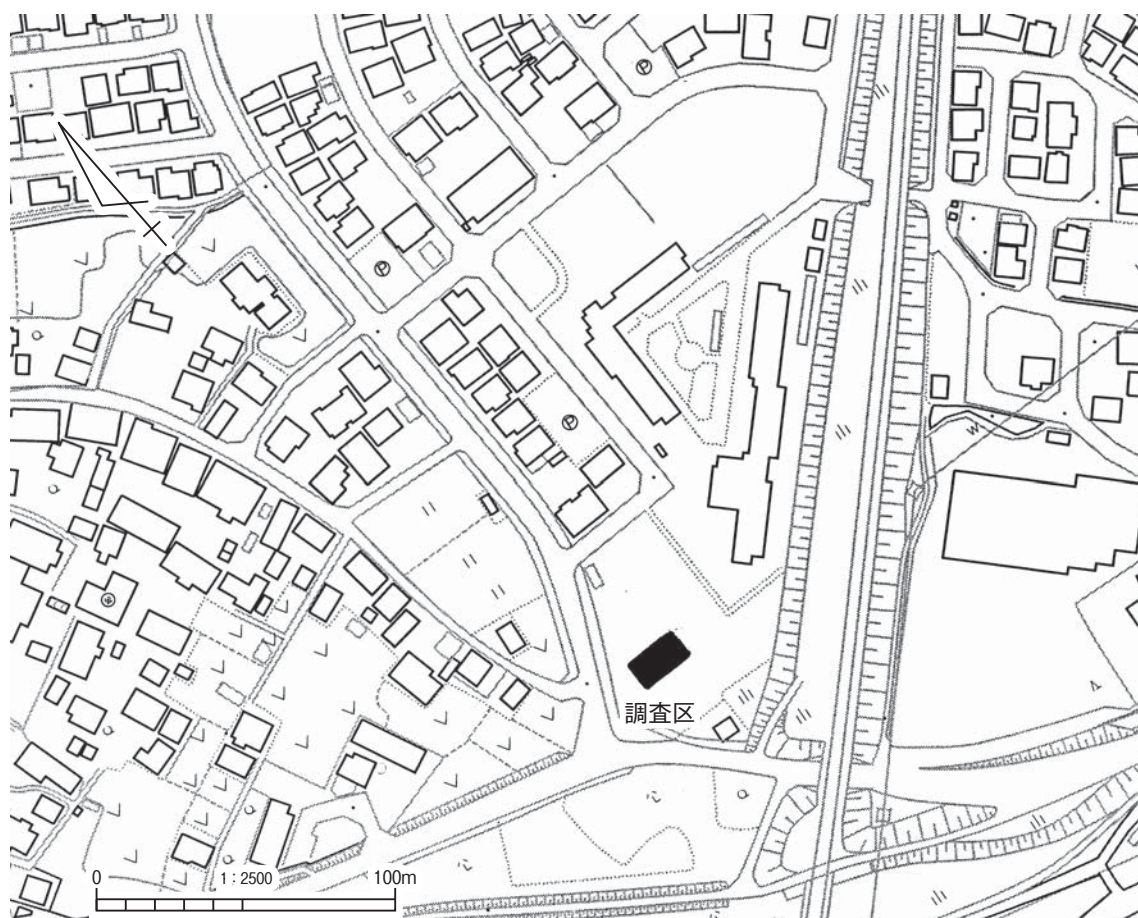


図1 調査区の位置

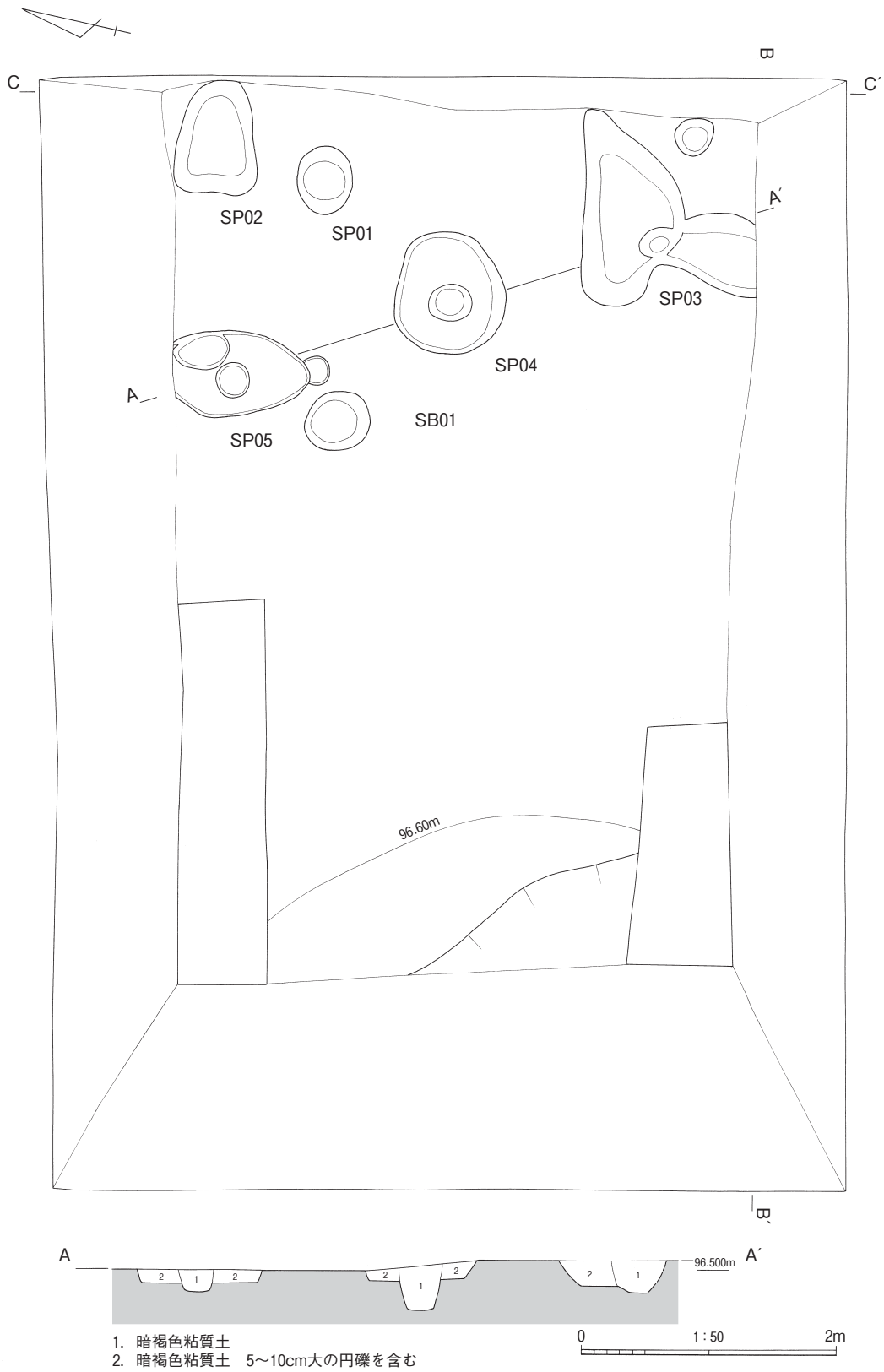
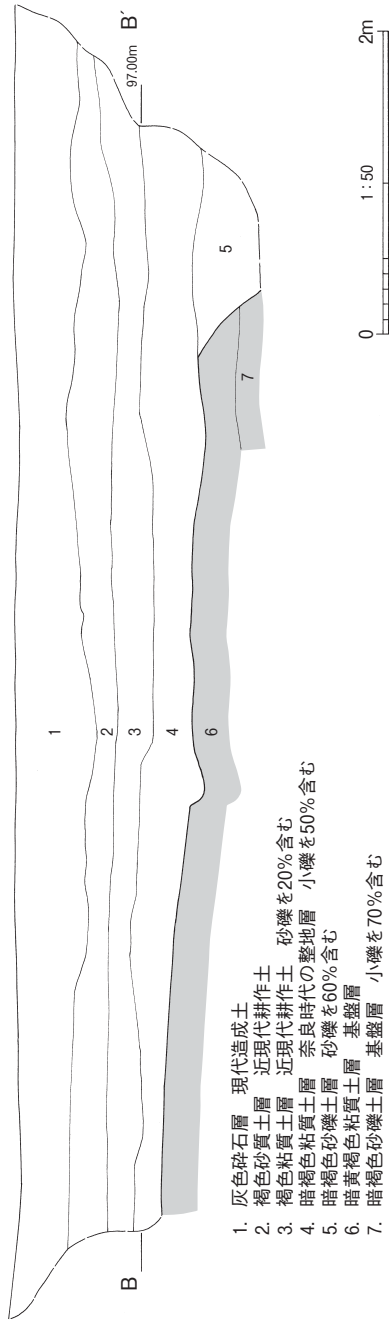
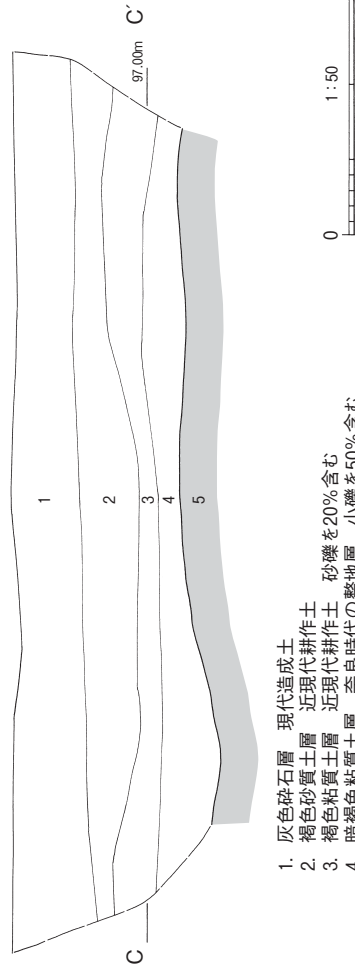


図2 調査区全体図



1. 灰色碎石層 現代造成土
2. 褐色砂質土層 近現代耕作土 砂礫を20%含む
3. 褐色粘質土層 近現代耕作土 砂礫を50%含む
4. 暗褐色粘質土層 奈良時代の整地層 砂礫を60%含む
5. 暗褐色砂質土層 砂礫を50%含む
6. 暗黄褐色粘質土層 基盤層
7. 暗黄褐色砂質土層 基盤層 小礫を70%含む



1. 灰色碎石層 現代造成土
2. 褐色砂質土層 近現代耕作土 砂礫を20%含む
3. 褐色粘質土層 近現代耕作土 砂礫を50%含む
4. 暗褐色粘質土層 奈良時代の整地層 小礫を50%含む
5. 暗黄褐色粘質土層 基盤層

図3 調査区南壁・東壁土層断面図



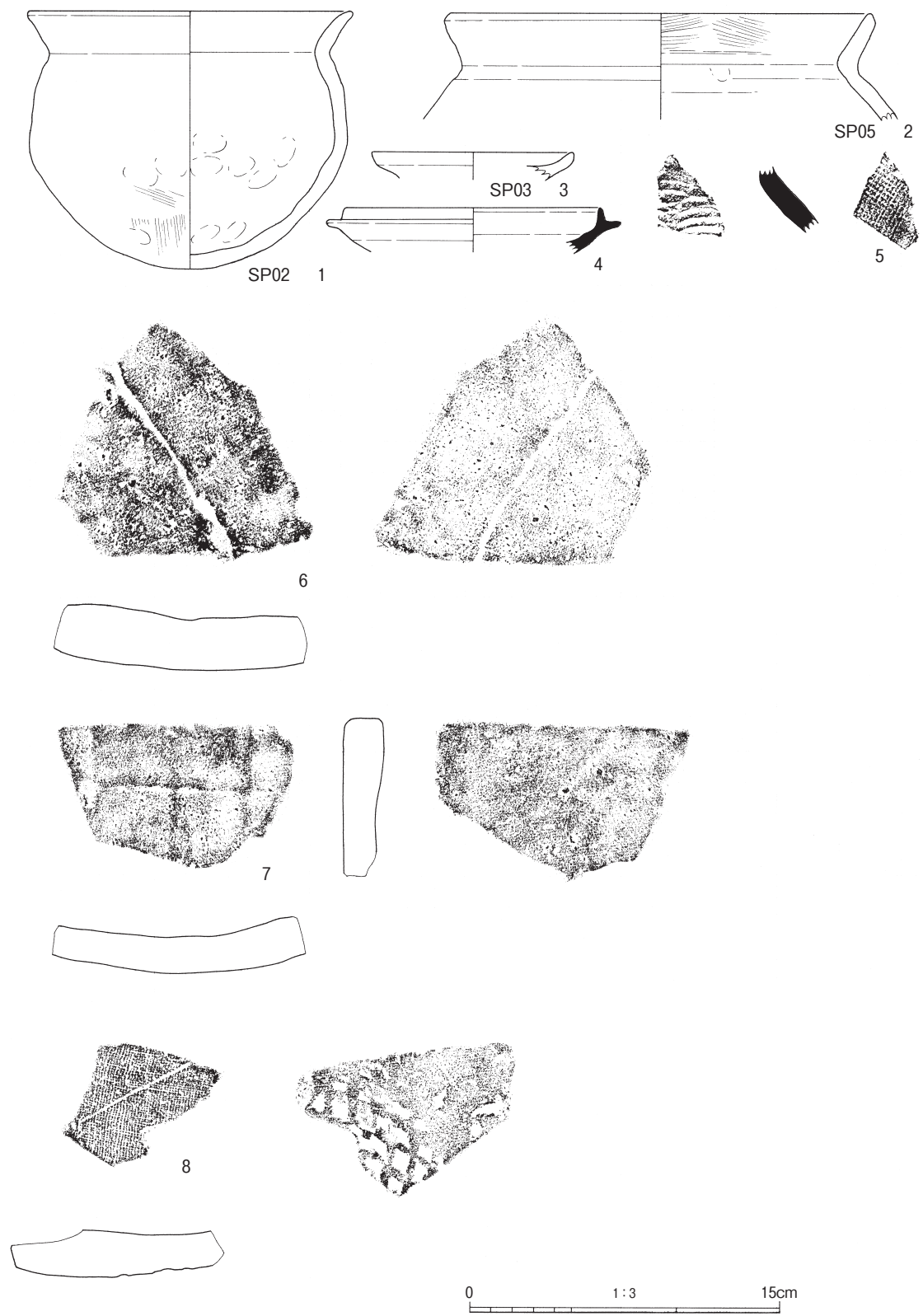


图4 出土遺物（1）

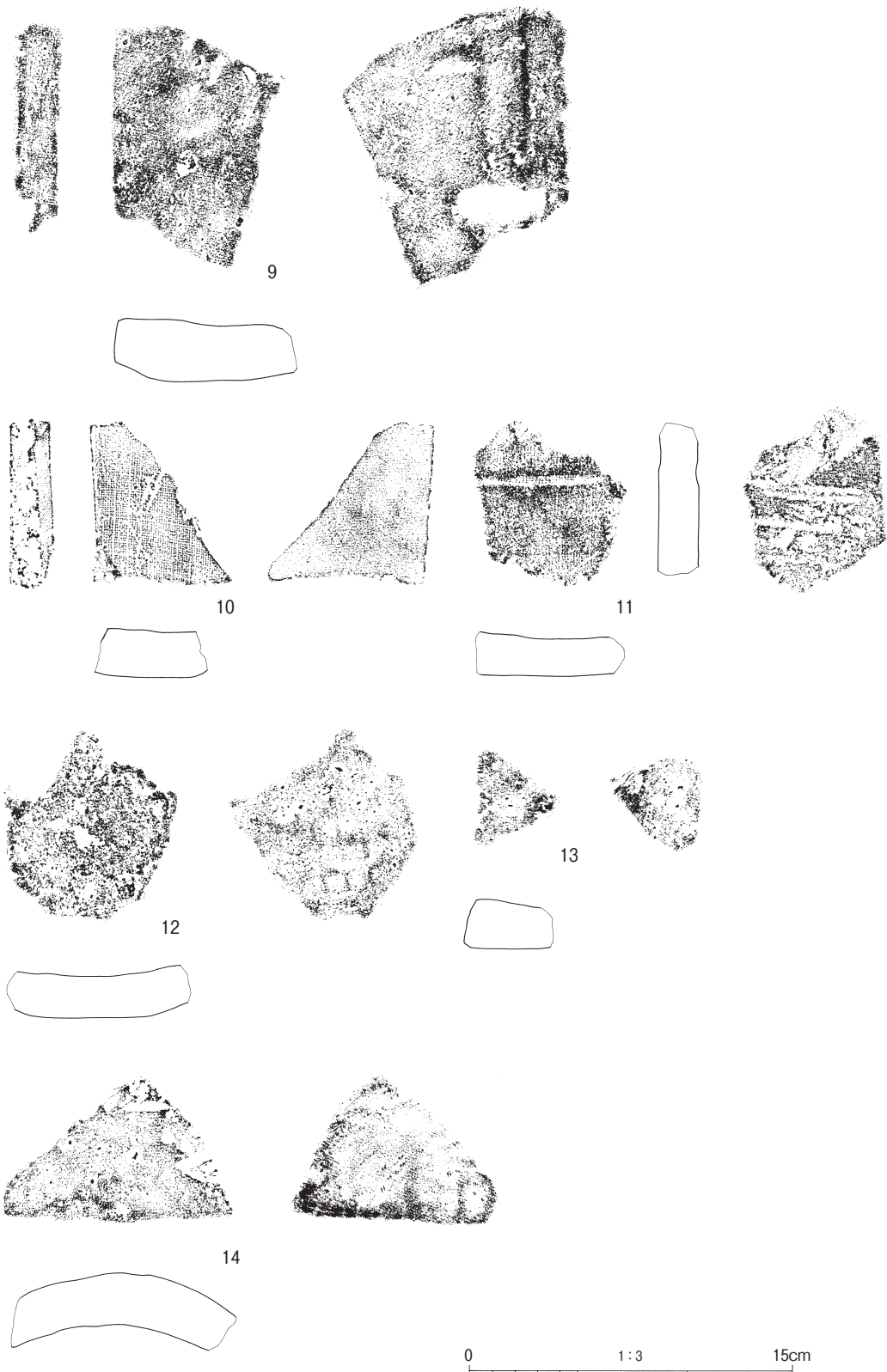


图5 出土遺物（2）

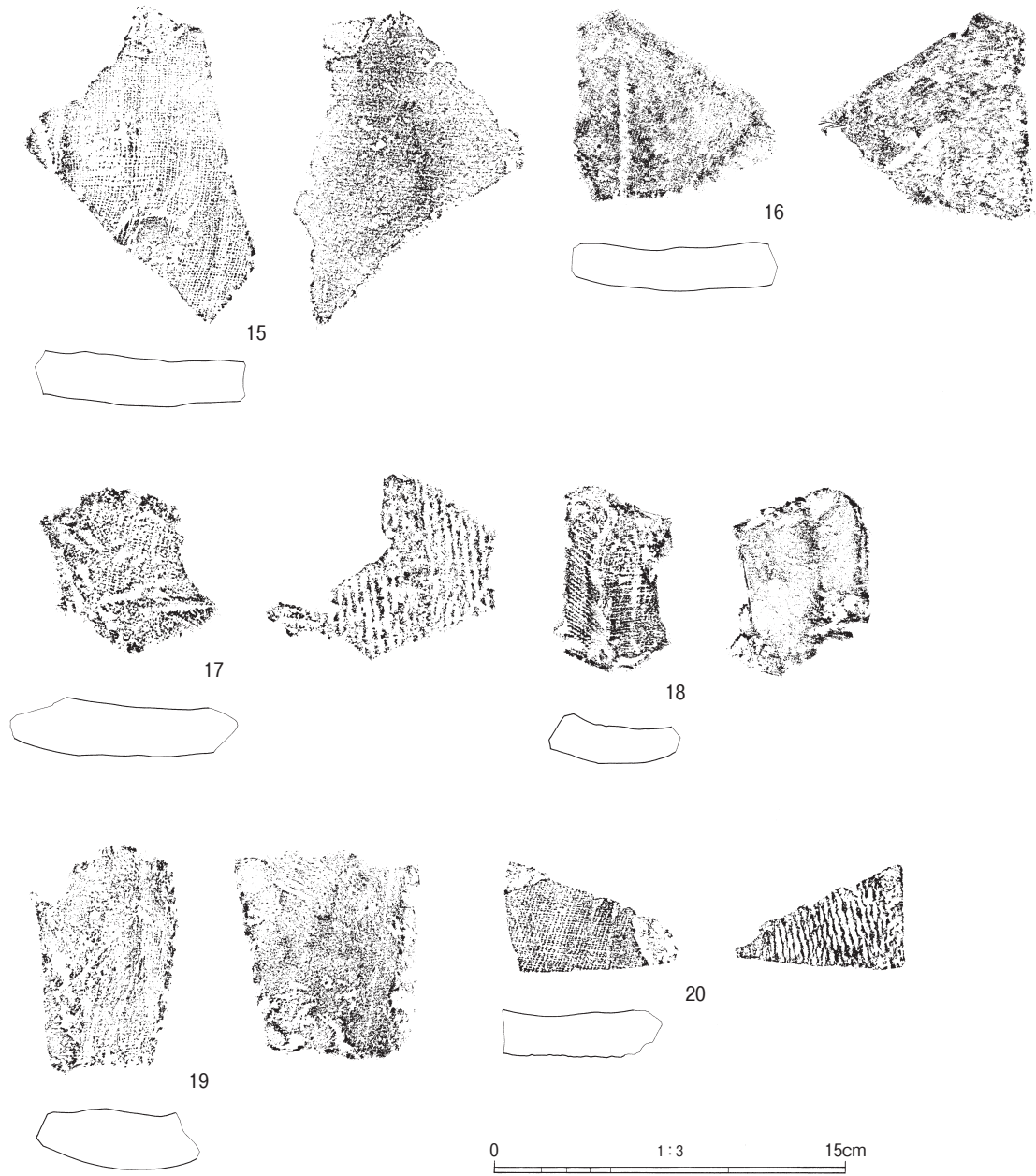


图6 出土遺物（3）



### 3 調査成果

調査区の層序としては、上層から、灰色碎石層（現代造成土）、褐色砂質土層（近現代耕作土）、褐色砂質土層（近現代耕作土）、暗褐色粘質土層（奈良時代の整地層）、暗褐色砂礫土層（自然流路の堆積層）、暗黄褐色粘質土層（基盤層）がみられる。遺構検出面となる暗黄褐色粘質土層の基盤面の標高は96.6mで、西側へしだいに低くなり、調査区西端では自然流路が確認された。遺物包含層からは、従来の調査と同様に、7～8世紀の瓦、土師器、須恵器が出土し、整地層である可能性が高い。

主な遺構としては、古墳時代終末期の掘立柱建物跡 SB01が検出された。SP 3・4・5から構成されるものである。建物の主軸はやや西へ振った方位となる。柱間寸法は1.7～1.8mで、東側の調査区外に展開するものと推定される。桁行は2間以上である。柱穴の掘方には径5～10cm大の円礫が含まれており、根固めのために円礫が充填されているものとみられる。柱穴 SP05からは、古墳時代終末期、6世紀末～7世紀初頭頃の土師器甕（2）が出土し、遺構の時期を示すものと考えられる。その他に小穴も検出しているが、SB01以西においては、遺構は確認されなかった。

各遺構と包含層からは、古墳時代終末期から平安時代初頭頃の遺物が出土した。1はSP 02出土の土師器甕である。2はSB01を構成する柱穴 SP05出土の土師器甕で、6世紀末～7世紀初頭頃のものである。3は、SP03出土の中世土師器皿で、混入品である。4、5は包含層出土の須恵器である。6～14は、古代瓦である。14は丸瓦で、その他は平瓦である。8のように、外面に格子状のタタキのあるものを含む。15～20は、調査区及びその周辺で表採された古代瓦である。

なお、調査区西側では遺構が検出されず、西側において遺構が希薄となる状況が明らかになった。地形としても、西側に向かって基盤面の標高が下がっていく土層の状況が確認され、調査区の中央あたりが遺構の広がり端部にあたり、竹ヶ鼻廃寺遺跡の縁辺部に相当するものと推定できる。

### 4 まとめ

今回の調査では、竹ヶ鼻廃寺遺跡としては縁辺部にあたる位置において、古墳時代終末期、6世紀末から7世紀初頭頃の遺構が検出され、狭小な範囲ではあるが、遺跡の西限の一端を確認することができた。既往の調査では、今回の調査と同様に、古代寺院が造営される以前の古墳時代後期から終末期の竪穴建物と掘立柱建物が広範囲に検出されている。椿塚古墳との関係や周辺の遺構との関係もふまえて竹ヶ鼻廃寺遺跡における古墳時代終末期の様相についても整理検討する必要がある。

図版 1



1 調査区全景 西から



2 調査区全景 東から





3 調査区南壁土層断面



4 SB01 北から



図版 3



5 調査状況



6 調査状況

## 第3章 福満遺跡（13次）

### 1 遺跡の概要

福満遺跡は、彦根市北部の西今町に所在する遺跡であり、縄文時代中期末から晩期、弥生時代の末頃から古墳時代、そして古代にかけての集落跡として知られている。

遺跡南方には鈴鹿山系に源流を持つ犬上川が西流しており、周辺には犬上川の旧流路に伴う自然堤防や後背湿地が多く分布している。また当地周辺は犬上川によって形成された扇状地の扇端部にあたることから、周辺には湧水地も数多く分布しており、そこから供給される水は、周囲の田畑を潤している。

歴史的環境としては、遺跡の東方に竹ヶ鼻廃寺遺跡、南西には須川遺跡や西今遺跡など、古墳時代から古代・中世にかけての遺跡が多く分布している。これらはいずれも犬上川右岸の自然堤防上に営まれた遺跡であり、時期をほぼ同じくする一連の遺跡群となっている。

福満遺跡では過去12次にわたる発掘調査が行われており、弥生時代後期から古墳時代初頭、古墳時代後期など各時期の竪穴住居や、平安時代の掘立柱建物などが検出されている。また、縄文時代後期・晩期の遺物包含層からは多量の土器が出土しており、近隣にその供給元となる集落のあったことが想定されている。

今回の調査地点は、既存の宅地造成地内に位置しており、この宅地造成工事に伴う福満遺跡12次発掘調査においては、6世紀末～7世紀初頭頃の土坑墓2基、溝2条などを検出している。このため、今回の調査地点においては、古墳時代の墓域、あるいは古代の集落跡等に関わる遺構群の存在が予想されていた。



図1 福満遺跡 調査地点位置図

## 2 調査経過

今回の調査は、個人住宅の建設工事に伴う文化財保護法第93条の届出及び調査依頼に基づく、福満遺跡の第13次調査である。同地点は、既存の宅地造成地であり、この造成工事に伴って実施した福満遺跡12次調査の試掘調査により、同地には遺構が存在していることが、すでに明らかとなっていた。このため、今回の建設工事に伴い地盤改良工事の実施が決定した時点で、即座に本発掘調査として現地の発掘調査を実施することとなった。

今回の調査対象範囲は、工事の実施に伴い遺構に影響の及ぶ建物部分の範囲を調査区として、平成25年11月27日から同年12月20日にかけて調査を行った。調査地は、彦根市西今町字小坂ヶ橋298番1に位置する。調査面積は115.92㎡である。

## 3 調査成果

調査区の層序は、上層から①灰色砂礫土層（現代造成土）、②灰色粘質土層（耕作土層）、③褐色土層、④黄褐色土層（基盤層）となっており、このうち④層の上面において、古墳時代、平安時代の遺構を検出した。以下、各遺構の概要を記載する。

### 掘立柱建物（SB01）

SB01 SB01は大型の掘立柱建物で、確認している規模で1間×2間（長軸約4.8m×幅約2.6m）以上の規模を持つ建物である。正南北方向を主軸とし、建物全体としては、調査区外へと伸びている。柱穴の1辺は約1m程度であり、平面は隅丸方形を呈する。

### 竪穴建物（SH01）

SH01 SH01は、調査区南東に位置する竪穴建物であり、その過半は調査区外へと伸長する。SD03を切る。

### 溝（SD01～03）

溝については2条を確認した。このうち、SD01・SD02については、検出当初、別個の溝として認識していたが、調査の進捗により、一連の溝であることが明らかとなった。このため、ここではSD01・02と併記したうえで、一個の遺構として扱うこととする。

SD01・02 SD01・02は、調査区中央に位置する溝であり、調査区東部において約90度南西方向へ屈曲する。幅は上端部において最大約1.1m、底部幅は最大約0.6m程度を測る。深さは最も深い南西角付近において遺構検出面－71.2cmを測るが、屈曲部は極端に浅くなっており、遺構検出面－3～5cm程度となっている。

今回の調査に先立つ平成25年6月21日～7月31日にかけて実施した福満遺跡12次本発掘調査においては、古墳の主体部と考えられる土坑墓が2基見つかっている。また平成5年に実施した福満遺跡9次発掘調査では、同地点の北西約120mの地点において、方形周溝墓の周溝と考えられる溝が検出されており、今回検出したSD01・02についても、これと同様に方形周溝墓の周溝にあたる可能性が高いと考えられる。

SD03 SD03は、調査区南東角を東西方向に走る溝である。規模としては、上端部幅約1.1



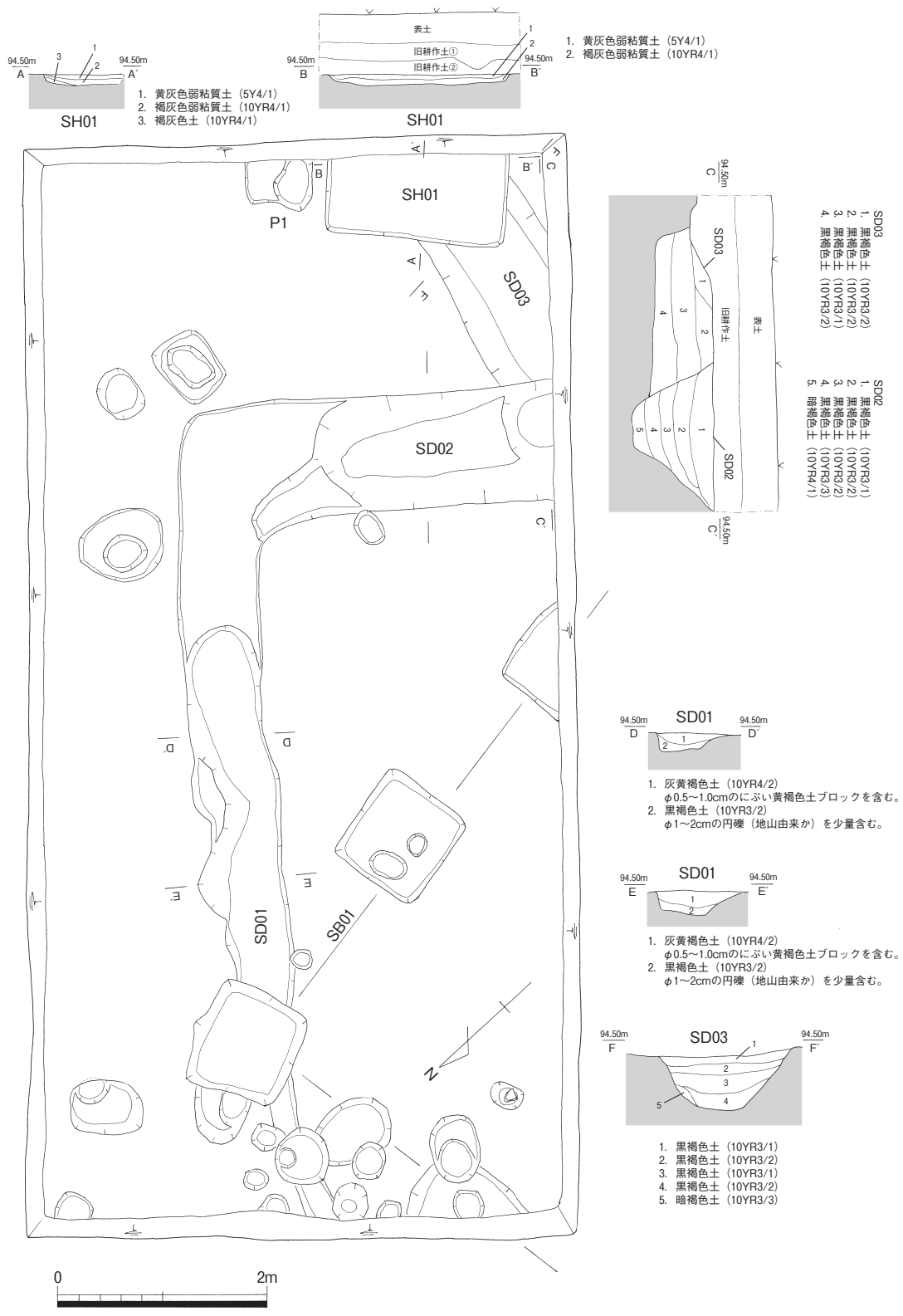


図2 調査区全体図・土層断面図

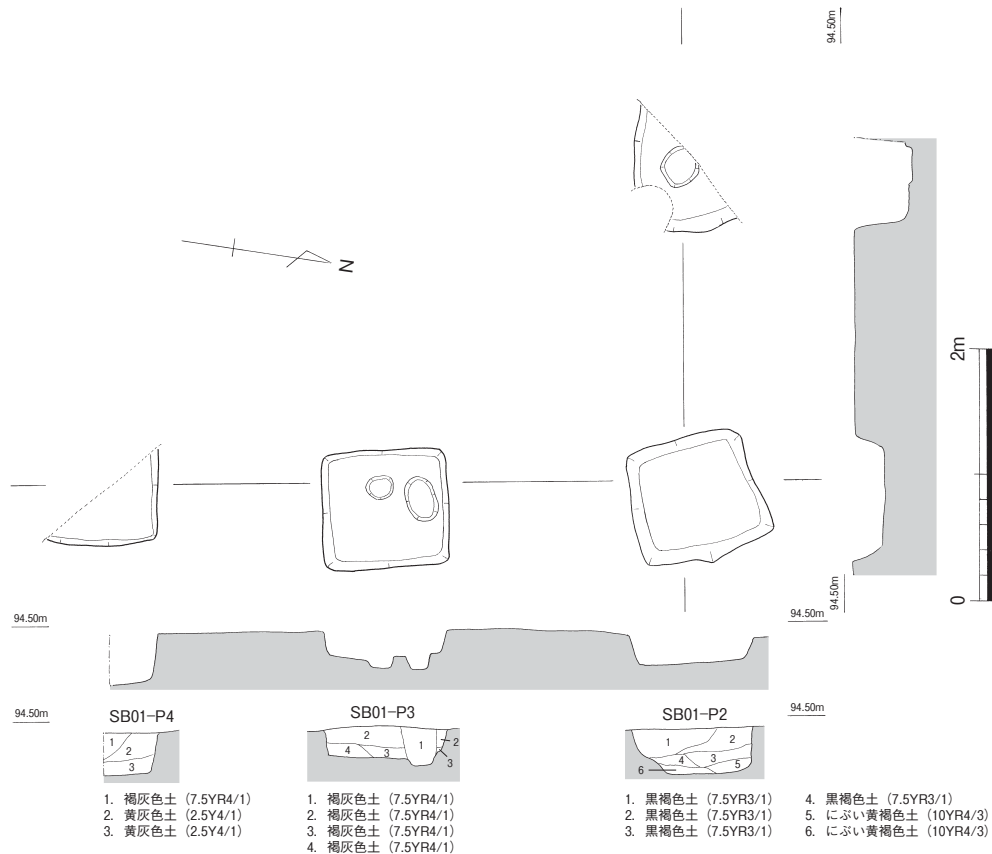


図3 SB01全体図・土層断面図

m、底部幅約70cm、深さ約60cmを測る。SD02およびSH01に切られる。

#### 出土遺物（1～34）

SB01 SB01-P1からは、須恵器坏蓋小片（1）・須恵器碗小片（2）が出土した。

SD01 SD01からは須恵器碗口縁（5）・土師器高坏口縁（7）が出土した。

SD02 SD02からは磨石（11）が出土した。

SD03 SD03からは、土師器高坏口縁（6）、土師器高坏脚部（9）が出土した。

SH01 SH01からは、須恵器小破片、土師器小破片、縄文土器底部（10）、銅製差金（13）が出土した。このうち、銅製差金については詳細を後述する。

P1 P1からは、土師器甕口縁（8）、砥石（12）が出土した。

P5 P5からは、須恵器壺口縁（3）、須恵器坏身底部（4）が出土した。

#### SH01出土銅尺について

SH01の遺構埋土内から出土した「銅尺」については、残存長で約3.03cm、幅約0.2cmを測り、その表面には9本、裏面には6本の目盛がそれぞれ刻まれている。その目盛の幅は、表面で平均3.186mm、裏面で平均4.468mm程度の数値を示しており、その比率は概ね1： $\sqrt{2}$ となる。また、表面の端部から4目盛目（他端部側からは6目盛目）には上部に丸印が施されており、これが本来の姿ではなく、折損品であることが理解される。ただし、偶発

的に折損した状態としては、全長が3.03cm ちょうどとなっている点から不自然であり、おそらく折損後に再加工を施したうえで、転用していたものと考えられる。

この遺物の素材および製造方法については、レントゲン撮影および蛍光X線分析の結果から、鑄造による銅製品であり、その後にタガネなどで、目盛が刻まれたものであることが分かっている。また、製品そのものの性格としては、本来は「L」字に折れ曲がる、いわゆる「サシガネ」の一部であったものと考えられる。

帰属する年代については、共伴遺物が皆無であることから、その特定が難しい。今回の調査区内において出土した遺物は、概ね8世紀後半～末頃をその下限としており、状況的には、その年代のものである可能性がある。

特に、今回の調査地点においてはSB01のような大型の掘立柱建物が検出されていることから、当地に官衙に関連した衛星的な施設が存在していた可能性が高く、この銅尺についても、この施設に関連したものである可能性が想定される。

ただし、現在までのところ、同時期の遺物として確認された銅製の「サシガネ」は皆無であり、発掘調査によって確認された「サシガネ」の事例としては、堺環濠都市遺跡から出土した、16世紀後半頃のものをも最古とするのみである。絵画資料によって裏付けられる年代としても13世紀中頃の『当麻曼荼羅縁起』に見られる表現、文献資料としても、9世紀の『新撰字鏡』において、「曲金(マガリカネ)」として表記されたものが最古の事例となっており、今回の調査事例が8世紀後半頃のものとする、これらの年代を大幅に遡るものになってしまう。

また、平城宮跡において出土している木製の物差しとの比較では、その目盛の平均幅において、約0.1mm 強の差が見られるなど、規格面においても、差異が確認されている。

今回の発掘調査地点については、その字名や過去の発掘調査結果などから、中世以降に耕作地となっていることが確認されており、隣接する福満遺跡12次本発掘調査の調査区においては、16世紀中頃の遺物を包含する、中世の耕作土層が検出されている。

今回の遺構検出面の直上に位置している耕作土層は、標高的にこの中世の耕作土層に相当する可能性が高く、今回出土した銅尺が、この土層からの混入品である可能性も否定しきれない。

このため、この「銅尺」の遺物としての評価については、現時点においては保留するものとし、近隣における調査事例の増加により、その性格を見極めていくこととしたい。

※今回の銅尺については、蛍光X線分析やレントゲン撮影、平城宮跡出土資料の調査について、独立行政法人 奈良文化財研究所の箱崎和久氏、小池伸彦氏、和田一之輔氏、神野恵氏の諸氏にご教示を賜った。また、建築技術史研究所の渡辺晶氏には、銅尺についての出土事例や詳細な考察等について、ご指導・ご教授を賜った。上記諸氏に対し、ここに改めて感謝の意を表したい。



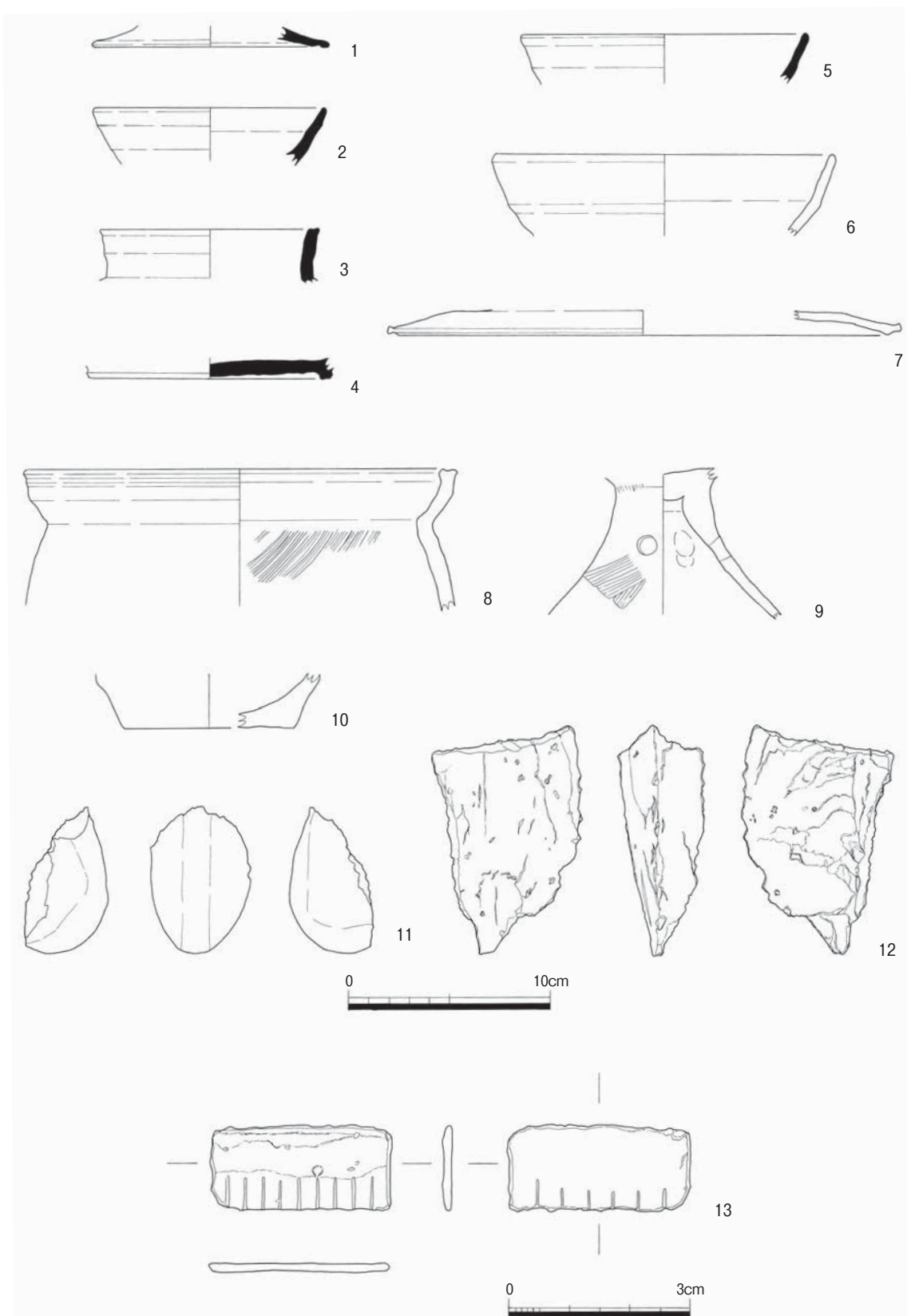


图4 遗物实测图

#### 4 まとめ

今回の調査では、官衙に関連すると考えられる大型の掘立柱建物を検出できたことが、非常に大きな成果となった。

従来、こうした大型建物の存在は、犬上郡衙に比定されている竹ヶ鼻廃寺遺跡を中心とした比較的狭い領域においては確認されていたものの、周辺地域における同様の施設の存在は知られておらず、今回の発見が、古代の福満遺跡を理解するうえで、一つの大きな指針になるものと考えられる。

また、既に官衙遺跡として一定の評価がなされている竹ヶ鼻廃寺遺跡についても、今回の調査成果を踏まえたうえで、その位置付けについて、再検討を行っていく必要があるだろう。

図版 1

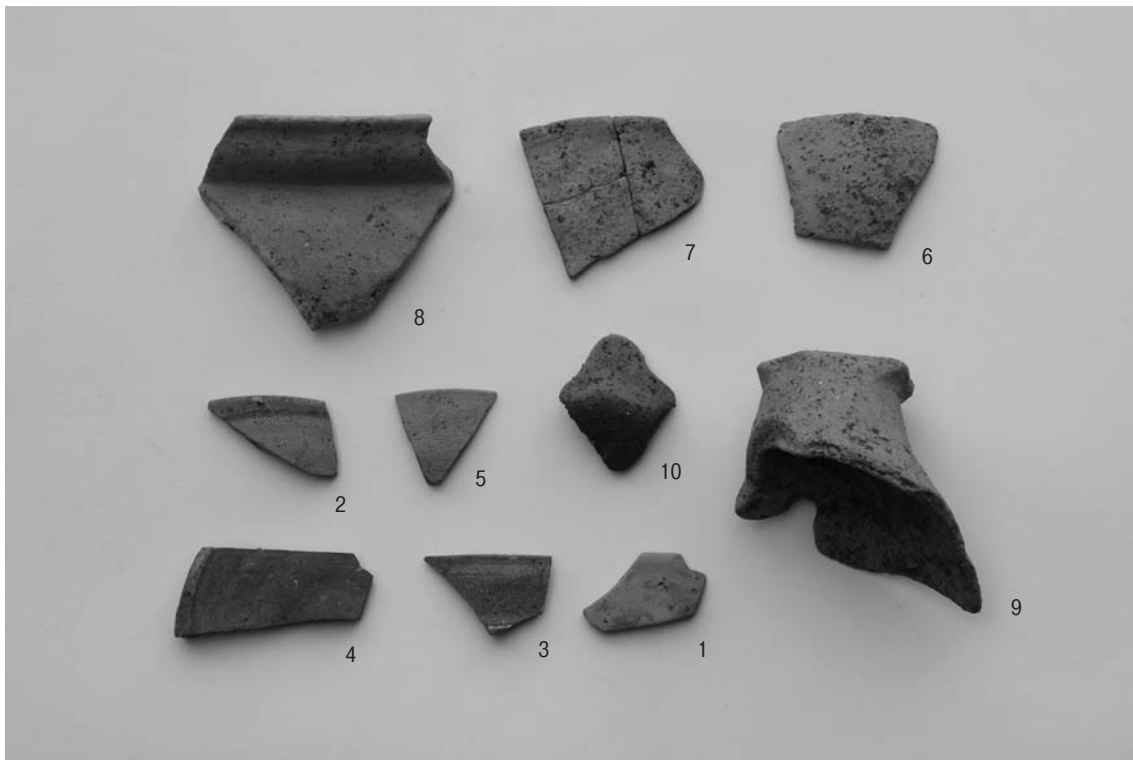


1 調査区全景



2 掘立柱建物 (SB01)





3 出土遺物



4 出土遺物

图版 3



5 SH01出土銅尺（表面）



6 SH01出土銅尺（裏面）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせいにじゅうごねんどひこねしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	平成25年度 彦根市内遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	彦根市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第63集
編著者名	田中良輔・戸塚洋輔・林昭男
編集機関	彦根市教育委員会 文化財課
所在地	〒522-0001 彦根市尾末町1番38号 TEL0749-26-5833
発行年月日	20150331

ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
さわやまじょうあと 佐和山城跡	ひこねし 彦根市 さわやまじょう 佐和山町	25202	90	35度 16分 58秒	136度 16分 42秒	82㎡	20130618～ 20130717	個人住宅
たけがはなはいじいせき 竹ヶ鼻廃寺遺跡	ひこねし 彦根市 たけがはなちょう 竹ヶ鼻町	25202	14	35度 14分 50秒	136度 14分 35秒	62.10㎡	20130730～ 20130808	個人住宅
ふくみついでせき 福満遺跡	ひこねし 彦根市 にしいまちょう 西今町	25202	15	35度 14分 50秒	136度 14分 36秒	115.92㎡	20131127～ 20131220	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	特記事項
佐和山城跡	城館	室町～安土桃山	柵・井戸・溝・土坑・ ピット群	
竹ヶ鼻廃寺遺跡	集落	室町	掘立柱建物・土坑	
福満遺跡	集落	古墳	掘立柱建物・溝	



彦根市埋蔵文化財調査報告書第63集

**平成25年度 彦根市内遺跡発掘調査報告書**

平成27年（2015年）3月発行

編集・発行：彦根市教育委員会文化財課

彦根市尾末町1番38号

TEL0749-26-5833

印刷・製本：西濃印刷株式会社

岐阜県岐阜市七軒町15番地

TEL058-263-4101

I ●●●●●●

1 ●●●●●

●●●●●●

●

☒●●●●●